

ゆとり？ 脱ゆとり？ 「はざま世代」の戸惑い

リクルート進学総研では、今年4月に高校生の価値意識調査を実施。社会観や進学観、キャリア観などについて尋ねました。今回はその中から彼らが自分たちの世代の特徴をどうとらえているかを、2012年との比較でご紹介します。

リクルート進学総研 研究員 牧田綾子

高校生に聞いた 自分たちの世代の強みと弱み

世代の「強み」

順位	強み	2014年 % (n=1438)	2012年 % (n=1043)
1	インターネット・ネット	4.3	3.3
2	IT	3.4	1.7
3	パソコン・携帯電話・デジタル・電子機器	3.3	4.6
4	発想力・独創性	2.7	2.2
5	若さ	2.4	5.4
6	脱ゆとり教育・新学習指導要領	2.3	—
7	柔軟性	2.0	2.3
8	協力・協調性	1.9	0.4
	ゆとり教育・ゆとり教育世代	1.9	1.5
10	情報の収集力・伝達力	1.8	0.9

世代の「弱み」

順位	弱み	2014年 % (n=1438)	2012年 % (n=1043)
1	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代	22.4	25.0
2	精神的な弱さ・根性がない・ストレスに弱い	4.7	2.7
3	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い	4.5	8.6
4	諦めやすい・我慢できない・忍耐力	3.9	3.5
5	コミュニケーション・会話が下手	3.2	2.8
6	社会的評価(認められない・馬鹿にされる)	2.5	2.2
	打たれ弱い	2.3	3.4
	言われた事しかやらない・指示待ち・自主性や主体性がない	2.3	0.3
7	人間関係・友達付き合いが下手	2.3	0.9
	常識がない・ルールを守らない	2.0	1.8

※自由記述を内容によりコーディングしたものを定量的に集計。
出典：高校生価値意識調査2014 リクルート進学総研調べ

「強み」はIT、スキル、 「弱み」はゆとり教育

1990年代後半に生まれた現在の高校生は、社会不安と不況しか知らない世代と言われる。

今回の調査では、未来社会は「明るい」と答えた高校生が前回調査(2012年)の31%から増加し、49%となった。明らかな理由としては、「東京オリピック」「アベノミクス」による景気回復への期待が挙げられている。しかし、依然として半数以上の高校生は将来の社会に不安を感じている。

そのような社会を生きていく高校生たちは、自分たちの世代の「強み」「弱み」を何だと自覚しているのだろうか。

まず「強み」については、「インターネット」「IT」「パソコン」など、トップ3はすべてITスキルに関するものである。スマホネイティブと呼ばれる彼らは82%がスマートフォンを所持。「情報の豊かさ、情報を得ることに対するの速さ」(2年女子)といった日常的なものから、「情報テクノロジーを用いた新しい価値を創出できる」(2年男子)という観点まで幅広い自信を持っている。また、「生まれる前に阪神淡路大震災、高校進学前に東日本大震災を経験し、人と人とのつながりを考えられる

機会を他の世代に比べ与えられた」(3年女子)「復興活動などをみてきて日本を支えようと思っている」(2年女子)など、震災が与えた影響を挙げる高校生もいる。

弱みに関しては「ゆとり・ゆとり教育」が22%と圧倒的に高い。一方、今回初めて強みの6位に「脱ゆとり教育・新学習指導要領」が入っているのも特徴だ。

「ゆとり教育に少しかぶつていて、社会に通用するが不安」(1年女子)「厳しい社会なのにラストゆとりなので後輩に抜かれる」(2年男子)という不安の声から、「ゆとり教育の終わったすぐ後の世代だから人としてしっかりしている」(2年女子)「新教育課程最初の世代だから、基礎学力は高い」(2年女子)という自信まで、「ゆとり」と「脱ゆとり」のはざまで戸惑っている高校生の姿が浮き彫りとなった。

そんな中、先日インタビューした男子高校生がこんなことを言っていた。「ゆとりで不安もあるけど、これからの社会は自分たちが明るくしなければと思う。いつまでも人任せではだめ何をするべきかは、まだわからないけれど」。どんな社会でも世代でも、未来を創るのは自分の意志。そう考える高校生が増えることを願う。